令和6年度第3回茨城県図書館協議会 議事録

1 開催日時等

- (1) 日 時 令和7年2月27日(木) 13:30～15:30
- (2) 会 場 茨城県立図書館 会議室1・2
- (3) 出席者 協議会委員：池内委員長、成田委員、川又委員、堀野辺委員、
大橋委員、木滝委員、川野邊委員
生涯学習課：塚田課長補佐
県立図書館：小田部館長、木村副参事兼副館長兼企画管理課長、
茂木主査兼情報資料課長、武田主査兼館内サービス課長、
杉本主査兼普及課長、重藤情報資料課主査、矢澤館内サービス
課主査、鯉淵普及課係長、栗原企画管理課主査

2 協議会内容

- (1) あいさつ等
 - ・小田部館長あいさつ
 - ・池内委員長あいさつ
 - ・定足数報告、日程説明(進行)
- (2) 報告
 - ・令和6年度事業実績報告について
 - ・令和7年度知の探究セミナー事業計画について
 - ・システム更新に伴う図書館利用の変更点について

○令和6年度事業実績報告について
(事務局)

【1月末現在の利用実績について】

今年度は、12月までは順調に利用者数を増やしており、平均でもかなり伸びていたような感じである。ただ1月になりシステム改修で2週間程休館していたので、利用者は、ほぼ横ばいになってきた。累計では1万人前後昨年より増えている。いろいろなイベントがあり、図書館に来る機会が多くなったというのが大きい要因だと思う。

また、昨年、椅子を1階に増やした。そういうのも少し、小さいながらも影響があるのかなと思われる。

一方、個人貸し出し点数については、少し減少傾向である。この辺は、課題となるかと思っている。レファレンスサービスについては、若干増えている。相互貸借の方は貸出点数が少ないが、他館から借りる点数は増えている。遠隔地貸出についてもだいぶ根付いてきたようで、貸す人数、点数ともかなり伸びてきている。これは引き続き伸ばしていきたいと思っている。

団体貸出については、新たな団体の開拓ということで、単純に図書団体だけでなく、保護施設(児童自立支援施設)など、そういう今までなかったようなところにも貸出を増やして伸びている。

今後もまた、そういう連携をしていきたいと思っている。

館内閲覧のAVブース利用人数も、伸びている。複写サービスは逆にかなり減っている。ホームページの方ですけどもホームページアクセス数としては増えている。

(事務局)

令和6年度の県立図書館の利用実績等について説明した。何かご質問、意見はあるか。

(A委員)

遠隔地貸出とは茨城県立図書館の資料を遠隔地の方が借りられるサービスである。それは図書館を地元の図書館とは経由しないのか？

(事務局)

直接インターネットで県内の方が申し込みをして、地元の図書館を経由して借る場合と、郵送代を支払えば郵送貸出もできる。相互貸借の場合は、市町村図書館の職員に直接本を送付して本を確認してもらうが、遠隔地貸出する場合は袋に入れてぶっく便として中身が見られないようになっている。利用者はインターネットで、夜中でも見られるので、それが非常に効率的なのかなと思う。

(G委員)

朝スマホを開き、ホームページを見ると、Xとかが入ってきて、「今日どここの会議室を使えますよ」という情報が毎日入ってくる。「あそうなんだ」と見るが、中高生とか大学生とか本当に勉強しに行きたいなっていう子達にとっては、そういう情報を毎日発信してもらっているというのは結構ありがたいと思う。やはり、ホームページも大事だが、SNSの発信というのは、本当に年代問わず心に触れるところがあるのかなと思っている。今は、インスタグラムとかXとかの方がよいのではないか。

今、中学生でもラインは使わない。実は中学生の友達同士でやり取りするのは、もうライン使ってないよと最近言われている。インスタを使っているケースが結構多いので、使う場所はおいおい変わってくるのかなと考える。

特別支援学校とはどのように関わっているのか。

生涯学習審議会で、障害者の生涯学習の話をしている中で、県のこういった資源がものすごく大事ではないかと話をしている。特別支援学校とコラボして、こどもとしょじつに絵本を増冊ということは誇ってもいいことだと思っている。

健常な子ども達だけでなく、そういった取り組みが、いろいろな子ども達を大事にすることになる。学校での図書の貸出取組はあると思うが、特別支援に対してはどのような取組をしているのか。

(事務局)

特別支援学校でも小中学校と同じように団体貸出の対象にはなっているが、実際にはほとんど借りられることはない状況である。先生達が、読書する習慣を子ども達に取れる時間が少ないのか、それとも、我々の周知の仕方が悪いのか、どちらかに原因があるのかと考える。

今後、バリアフリーというのは、図書館の重要な観点になるかと思うので、強化していきたいと思っている。相手がどれだけ借りてくれるか分からないが、特別支援学校ともやり取りし

ていきたいと考えている。

あともう一点は、フリースクールや、学校に通えない子ども達に対する貸出がある。

学校内のフリースクールも増えてくるということなので、それに対して図書館として、学校以外の別な貸出を昨年作ったので、フリースクール用の図書として活用して借りていただきたい。

(G委員)

自閉症の子が、絵本を見ながら粘土細工を作ったりする。障害を持っているから本は関係ないということではない。そういうところの価値が広がっていていき、本を活用してほしい。

(事務局)

特別支援学校の郊外活動の子ども達の受け入れは行っている。あちこちの学校の子どもの校外活動の受け入れとしては結構受け入れている。カードを作って本を借りて帰る場合もあるし、館内を見学する場合もある。そういった受け入れについては、積極的にやっっていこうと思っている。

(C委員)

入館数が増えて、本と触れ合うというのはとてもいい感じがする。

今日、来館し、先日まで図書館が休館していて、クリアになってくすみが消えたっていう感じがする。書架もすっきり整頓されていて、きつくて指が入らない程ではないのがよい。

職員に聞いたら、「一部地下の倉庫に入れました」と言っていた。なるほど、ずいぶん見やすくなったと感心して見ている。

ただし、書架を直せば、もっとよくなるだろうにと思う。

○令和7年度知の探究セミナー事業計画について

(事務局)

令和7年度県立図書館における知の発信拠点としてのセミナーの開催について説明した。

知の探求セミナーということで令和5年度よりスタートして来年度3年目になる。セミナーを行うことで来館者を増やすということに効果があったと考えている。来年度の案であるが、基本は原則月2回セミナーを行うということがベースにある。プラス途中で新たなテーマがあったら、どんどんプラスをしていくスタンスで考えている。

(事務局)

令和7年度知の探究セミナー事業計画について説明した。何かご質問、意見はあるか。

(A委員)

このセミナーは録音や録画はあるか。

(事務局)

一部であるが、ユーチューブでの配信は、講師の方が了解したものを配信している。

(A委員)

例えば、戦争の記録というのは、これはかけがえのない歴史的資料で、ユーチューブとかで公開するかどうかまた別にして、やはり記録としても、戦後これだけ時間が経って 80 年であるから、そういう生の声を聴く機会はなかなかないと思う。

(G委員)

新しいものが多い中で、歴史館とか美術館とのコラボはすごく大事だなと思っている。
水戸市内で戦争の語り部のできる方が減ってきた。そのような人を残してもらえるとありがたい。

○システム更新に伴う図書館利用の変更点について

(事務局)

今年 1 月にシステム更新を行った。変更点について

- ① マイライブラリ:ホームページから個人で作る(入力する)。これまで読書履歴は見るができなかったが読書履歴を本人が設定することが可能となった。
- ② 利用者カードの有効期限を5年から3年へと短くした。今まで5年だと、例えば大学4年しかいないのに有効期限が5年だと大学生が卒業して、例えば他の県外に行ってしまう、その時にもうどこにいるか確認しようがない場合が出てくる。そうすると本が借りっぱなしになり卒業後に連絡がつかなくなる可能性がある。他県の図書館の話を知ると、有効期間は3年ぐらいというのが大体のところであった。3年だと頻繁に確認するようになるが、いろいろなやり取りができるように変更している。
- ③ 利用者登録、カードを作る時であるが、今までは来ない場合にも郵送という形でやっていたところを、ネットで、電子申請サービスを使用して利用登録の仮申請をすることができるようになった。仮申請が可能ということで、来館しなくてもある程度手続きができるため利便性が向上したということである。
- ④ ホームページと検索横断検索を全面的にリニューアルした。
分類が日本十進分類法(NDC)の9版から10版に変更になった。それに伴い、分類が一部変わったところがあり、配架場所も変更となるところがある。
- ⑤ 資料延滞時のルールが変更になった。

○ホームページと検索横断検索を全面的にリニューアルについて

(事務局)

以下の3点について、令和7年2月にシステム更新を行った。

- ・貸出返却システムの更新
- ・横断検索を相互貸借システムへつなぐシステム更新
- ・ホームページのリニューアル

それぞれ別々の契約で行っていたものを、一本の契約で一つの調達にまとめた。

契約期間はこの2月から5年後の1月末である。

ホームページは、リニューアルにあたって、その内容をある程度項目だてして記載するという形をとった。シンプルで整理されたデザインとした。

また、これまで、画面自体が基本的にはパソコン用の画面で構成されており、それをスマートフォンなどの端末で見てもそのままの画面という形だったが、今回のリニューアルで、スマートフォンなどへの画面サイズに適應させて表示するという形をとった。

茨城県のウェブアクセシビリティ指針に準じて作成をしているところであり、茨城県庁のホームページ自体が2月16日（日）からリニューアルされている。後ほど見ていただくと、当館のホームページとほぼ似たような形で構成されている。特に表示したいものを大きくするという形をとっている。

現在の当館ホームページでは、最初に遠隔地貸し出しサービスを大きく出しており、5項目大きく表示している。この他に図書館エントランスの部分、相互貸借サービス、郷土資料、知の探究セミナーの扱いについてである。

その他人気があるイベントについては、多数の来館者が予想されるので、それに関する参加方法の告知をしている。

マイライブラリーログインの場所を変更した。

下の方に行くと、重要なお知らせ、新着情報・お知らせなど、イベントの日付別の案内、ギャラリー等での展示などを表示している。

横断検索であるが、この検索方法は、仕組みでは25サイトずつ区切って検索をしている。

リニューアル後は、横断検索参加館同時に検索を開始して、取得できた情報をその都度更新していくという形に改めている。検索結果の表示というのは時間的にはだいぶ向上している。その仕組みにつきましてはカーリルの仕組みを採用させていただいている。

Google ブックスとか国会図書館や大学図書館の検索サイトにも選択して情報を入手できる。

相互貸借は、こちらも画面を改めまして、1画面のところで一行に1項目ということで、シンプルな構成に改めている。

○資料延滞時のルール変更について

（事務局）

資料の延滞制度について、2月から督促方法を強化したルールに変更した。

貸出資料は、利用者の多くは貸出期間内、14日間になるが、期間内に資料を返却してもらっている。しかし、一部について返却が滞り、長期化する傾向がある。そのため、速やかに返却を促し、他の利用者への円滑な資料提供に繋げるべく、2月から利用規程を改定して督促方法を強化した。

具体的な督促方法については、まず期限14日間のところを、さらに2週間伸ばすと30日となり、他の利用者はこの資料を15日待っている状態になっている。

30日延滞した場合には、その日から全ての資料を返却するまでは貸出停止とする。これは特に理由を問わないで自動的にやっていく。さらに、延滞後60日となると、全部の資料を返却しても、その後100日間の貸出停止とする。罰則的な部分になるが、これを適用させていくことになる。こちらの部分は、すでに2月1日から資料貸出から変更ルールで適用している。

関連として、延滞だけではなく、紛失したとか、汚損した、いわゆる弁償対象の資料をどうしていくか、一つの問題として抱えている。こちらについても、延滞とは時期がずれるが、内容をきちんと見直しをして、新たなルールの方法を適用させていきたいと考えている。弁償については、ほとんど10人が10人、理由が全部違うような状態であり、それぞれに最終的にその対応の方法として、単純にその日数で切って貸出禁止の措置を適用していくかどうかというところについてはもう少し検討が必要かと考えている。

（事務局）

システム更新に伴う図書館利用の変更点について説明した。何かご質問、意見はあるか。

(G 委員)

リニューアルした中で、ホームページからリクエストすることはできるのか。

普通の資料より高いくくりの本で、図書館にリクエストするといいいよと言われたことがある。図書館から離れていて、わざわざ来てリクエストしなくちゃいけないとなると、結構大変だと思ったので、ホームページからリクエストかけてメールで入りましたよって連絡が入り、取りに来ると言う二度手間にならなくて済むと考えた。ホームページからリクエストをかけられるとちょっと嬉しいと自分的には思ったが、そういう機能は今のところないのか。

(事務局)

今のところ用意していないが、電子メールによる受付はしている。来館しなくても、リクエスト用紙に記入してメールで送付してもらえれば、リクエストの取り扱いができる。

リクエストの資料が入ったら、メールで連絡することもできる。

(G 委員)

リクエストをメールから出来るみたいな、どこか入口を作ってもらえると、リクエストしていいんだと思う人が増えるかもしれない。

(事務局)

昨年 12 月から貸出返却についてのルール変更されたことのお知らせをしてきた。

(事務局)

貸出時にチラシを作成し配布した。また、そのチラシと一緒にポスターを館内掲示したり、ホームページでも告知をしてきた。これまでのところ、特に苦情はなく、聞いていないという話もない。

(G 委員)

今、ホームページを見たが、非常に見やすくて今風ですね。非常にいいと思う。

今後、いろいろな意見も出てくると思うが、そういう意味ではその意見が出た分、多分ここに来る方も増えるし、利用者も増えるのではないかと思う。

(B 委員)

ホームページは見やすくなってとても良いと思う。

1つ気になったのは、ホームページの中に読書感想文コンクールの入賞者の氏名、学校名等の個人情報が出ていた。学校では、こういった個人情報の発出にはとても気を付けているが。

(G 委員)

ホームページに掲載するには、これからは個人の承諾が必要となってくるとされる。

募集をする段階で、掲載についての了解についてうたっておくとよいのかもしれない。

(事務局)

そのことについては、要項に記載をしてあるので、親御さんに一応事前の確認もいただいて

いる。掲載後1年で消去するようにもしている。

(B委員)

安心した。ありがとうございます。

表彰してから1年間ぐらいでデータを削除して、永続的に見えるような状態にしないという話ありがとうございます。

(D委員)

延滞時のルールを変更、弁償のルール変更について、それが2週間借りられたのが借りられなくなるのか。また、弁償のルールに変更があったのか。

(事務局)

具体的には、これから検証していければと考えている。

紛失には、利用者自身が紛失した場合と、盗難にあった場合とか災害に遭った場合、いろいろ違うケースがある。そういった時にどういったルールを適用していくか。

汚損状態にもよる。資料の希少性によっては、修理して配架する、買えるものは購入して返却してもらう、古くて購入できない場合は、同程度の書籍を購入し納本してもらう等状況は違う。

(事務局)

弁償となると、失くした本は、結局返ってこないと他の利用者に貸し出せない。それは延滞と同じ扱いだと思う。普通に買える本であれば、2週間借りた後に失くしたとなれば2週間ぐらいで買うことはできる状態なので、その中で帰ってこないのは、悪質性があるか、もしくはその後を知らんぷりしようとしているように感じる。実際に今現状の中では除籍処分になるものも何件もある。利用者の不利益にならないようにしていきたいと考えている。

(3) 議事

協議 進行：A委員

(A委員)

前回2回目の協議会の時に示しているもので、一部修正したものになる。

事務局から説明願いたい。

(事務局)

- ・令和7年度以降図書館評価（指標）について
- ・令和7年度の運営方針について
- ・次回協議会について

委員から前回の協議会で出された意見等をもとに修正した図書館評価指標と、令和7年度運営方針について変更点等を中心に説明した。

(A委員)

前回の協議会で、皆さんに協議をしてもらい、その意見をもとに修正した後の令和7年度以降の図書館評価(指標)についてと令和7年度の運営方針について合わせて説明していただいた。指標にこだわらず、こちらの運営方針も含めて説明いただいたものについて、皆様からご質問・意見等はいかがか？

(C委員)

アクセシブルな資料と大活字、デイジー図書とは何か？

(事務局)

デイジー図書は、それを再生すると、表記された文字を音声で聞きながら、自動的に文字がひらがなで表示されていて、強調・拡大で表示されるとか、読み上げ速度の調整ができる等、障害者専用に向けられたもの。

年齢とともに弱くなっている障害などある方に対して提供できる可能性が高いものなのではないか。

(事務局)

デイジー図書は、点数はそれほど多いわけではないが、インターネットから特別な手段でダウンロードすることができたり、ボランティアさんが作って納品したりする資料で、あまり知られてない。これを館内で展示できないか、検討はしていたが、場所が少なく、展示場所もない。録音図書の展示とか、大型活字本も含めて、コーナーを作り周知することも検討していきたい。

(C委員)

デジタル化の中で、もうちょっと高齢者向けなのかと考える。このアクセシブルな資料は、この言葉の中にぱっと入ると言っている意味は全然分からないと思うので、今質問した。やっているから分かるのであろうが、また、自分でそれが必要としている人も分かるのかもしれない。逆に言うと、自分が万が一に、本当にそういうふうになった時のことを考えると、この言葉では全然分からないと思う。

(G委員)

日本語を母語としない利用者とはどういうことか。茨城県は、海外にルーツをもつ人がかなり多い県であると認識している。そういった形そういう方達に対する優しい日本語の講座とかの実施をしているなど、まだまだ聞こえてこない県でもあるなと思っているので、図書館で、先駆けとなるような講座とか、先駆的にやってもらえればと思う。これだけ海外旅行の方が多く中で、やはり優しい日本語とか日本人も学ぶと全然違うし、目からうるこの感じのところがあるので、考えてもらえると助かると感じる。

(A委員)

先程のデイジーの話であるが、デイジー資料そのものを利用するのに書架から貸出し、物理的なメディアに関しては、図書館資料で所蔵だが、基本的にそのデジタルネットワークの話はあの大きいところに集約した方が多分大きいので、紹介というか、こういうのがありますよと

教えてあげてはどうか。こちらに誘導するのがよいと考える一方で、その物理的なデジタイズ図書とかに関しては確かにこちらだと思うが、デジタル化されているCDとかは図書館で集めなくてもサピエで利用していただくように集約していく方が効率的かと考える。デジタルネットワークは、物理的な移動の必要がないですから、それらは大きいところに集約してそこを利用していただく。そういう意味でいくと都道府県立レベルがほぼ一番高いレベルです。国会図書館は、今かなり直接的なデジタルサービスに力を入れている。

アクセシブルなという表現であるが、万人向けかということそうでもなく、「アクセシブル」では難しそうと思う。これでも通じることは通じるが、バリアフリーとかの方がもしかしたらもう少し分かりやすいかもしれない。つまり障害者用資料と違って言葉ではないんですよね？いろんなその障害の程度があり目が見えないので、言葉がよく分からない。いろんなそのバリアがある。その表現として、今回アクセスが可能な資料ということかと思う。図書館用語と一般用語と最近の言葉と古い言葉とか、できるだけ多くの人々に理解してもらえるところ、一番いいところを取るというのはやはり難しい。他に質問・意見と評価指標だけではなく、運営方針等についても何かあるか。

(A委員)

基本的なバリアフリーに関して、今、貸出点数にすぐにこだわる必要はないと私個人的には思う。あの所蔵点数について、しっかり皆が認知してくれるぐらい大きな所蔵資料を収集しておけば、利用は後からついてくると思う。

(E委員)

先程の知の探究セミナーであるが、子ども向けの知の探究セミナーよりも、対象年齢が大人向けのセミナーが多いと感じた。教育向けを考えると、ここでは、読書感想文講座のみである。子どもを図書館へという機会でもあるために、教育問題ももっと扱ってほしい。

教育問題、家庭問題は、各家庭で問題が細分化している。というか、本当に各家庭が抱える事情が多岐にわたっている。テーマも難しいとは思う。しかし、いわゆる教育の講演会をテーマとして講演会を実施すれば、興味がわいて人が集まるのではないかと思う。大きなテーマでやっても興味が分かれてしまっているのだから、大人数を対象にした一つのテーマの講演会よりも、小さい部屋で少人数を対象にして、本当に興味関心がある人が深く話を聞けるようなセミナー的なものもいいのではないかと感じた。もし来年度以降でもと思うのだが、どうか。

(事務局)

臨機応変に考えていきたい。県庁生涯学習課や水戸生涯学習センター等と連携も考えて今度やっていこうとは思っている。いろいろ参考にして計画を考えていきたい。

(A委員)

今、指摘いただいた細分化された課題みたいな、例えばどういうことが今の保護者の間で出ているのか。

(E委員)

正解がないテーマというか子育てに関することかと思う。どうやって教育していくのか、本当に各家庭にも色々な事情があって、子どもに対する接し方もいろいろあって、前みたいにかういうテーマで話をしてくださいという形ではなかなか難しく、講演会などの集まりに、人が忙しいということもあってなかなか集まらないということもある。

(A委員)

正解がない、答えのない問題について話し合える場があればよいのかもしれない。一方的に先生が来て、先生の話聞く、そして、話を聞いてその上でそのコミュニケーションしたりすると情報交換含めて、こういうやり方もあるんだというのをとみんなと話ができる。不安がつている人が多いのですね。

(G委員)

そうですね、私も学校に行ってそういう話をする時がある。最近必ずワークショップを入れたりグループディスカッションを最後に入れて、ということを目指す人がとても増えてきたと思う。話を聞きっぱなしだとそこで終わってしまうが、その問題によるだろうが、共有をして自分だけじゃないというところを聞いて安心して終われる、そういった時間が今とても大事になってきていると思う。E委員が今言っていた、多分その子育てネットワークのお母さん達、保護者の方達がいる年代の中で、学校ではなかなかこう聞く機会がないけれど、実はこういうこともやもや思っているのよね、というのは、こどもとよしつの子育て専門で、子育て支援コーナーが隠れたところであって、私もそこから覗いて借りたりするが、例えばその幼稚園児とか低学年のお子さんとか、小学生とかがいるお母さん方で今一番どうしようと思っているのは、多分性教育のところだと思う。学校の中で歯止め規定があってなかなか触れられないし、先生方の学びがなくてなかなか進まないという中で、性教育が結構いろんなところで始まっているが、聞くところがないよね？というようなことが子育て支援コーナーのところに結構そろって分類されていると思う。性教育であるとか情報モラルであるとかっていうそういうところを、セミナー的に行っていただき、ちょっと話をして相談できるようなことができればいいと思う。

多分、性教育というか、人権も包括的性教育っていうことが日本には入ってきてないのだが、世界スタンダードになっているのがユネスコの国際セクシュアリティ教育ガイダンスというものがある。包括的性教育の中にもジェンダーで人権団体であるが、そういったものが日本の教育システムの中に取り入れられてないので一番遅れているところを今、民間で一生懸命頑張っている。しかし、茨城ではほとんど聞かない。

(事務局)

子育て支援コーナーですが、2、3年前に作ったが、うらの方に隠れてるというように見えないと言って、それで実はあそこが安心して、椅子に座って、お子さんと一緒にそこへ行って本を見ている保護者の方が結構いらっしゃる。結構そのような意味で隠れ家みたいな感じですかね。意見をたまに聞きますのは、やはり地域のコミュニティの中に入れぬお子さんお母さん保護者の方が、あそこで子育て情報とか、またチラシなんかも置いているので、それを見ながら新たなコミュニティに参加しようとしていく、非常にいいというような話を何件かは聞ける。新しく転勤したとか、もしくは新規の地域なのでコミュニティがゼロになっているので昔

みたいにコミュニティが作れてない中で、どうやったらいいのかと抱え込んでしまっている人が、支援コーナーに来ていろいろ本を読んで、まあ知識が得られたという、随分、話を聞いているので、今の話のような本をどんどん入れたり、それに近いようなこと、どこまでか分かりませんが講演会みたいなものも検討していきたいと思います。

(D委員)

評価指標にある有料宅配サービスですが、今のところ、どれくらい利用があるのか。

(事務局)

後で調べて回答する。

※今年度導入した有料郵送貸出の2月末現在、一般利用者への貸出実績
延べ11人の利用者に対し107冊の有料郵送貸出を実施。

(D委員)

県民のボランティアに対する活動支援についてはどうか。

(事務局)

ボランティアを募集すると、募集人数よりも数多く応募があり、打ち切るようなこともある。

最近ちょっと新陳代謝がよくなり新しい人も入ってきている。配架、読書とか、本の修理のボランティア、外国語翻訳など多種類にわたっている。また、三の丸書庫という本館とは別のところに書庫があって、そこの整理なども活躍していただいている。ボランティアの方々には、随分我々の業務の力になってもらっている。

(E委員)

ボランティアの対象は、高校生や大学生などの学生さんも受け入れているか。

(事務局)

高校生は多い。今、受験で、特に私立大学の入試で、ボランティアを行ったことを願書に記載するなどもあり、また、推薦してもらいやすいなどがあり、ボランティア活動がすごく広がっていると思う。生涯学習センターで学生ボランティアを紹介してもらって、高校生に活動をしてもらうことは多い。

当館でも、登録しているボランティアさん全員がボランティア保険入っている。しかし、短期の保険加入はやっておらず、短期の高校生に保険をかけることが難しい。水戸生涯学習センターでは、学生に対しボランティア保険に加入しているので、怪我とか事故の時にそれをカバーできる。そのため、当館には水戸生涯学習センターを通じて派遣という形でお願いし、活動してもらうことができている。水戸桜ノ牧高校や水城高校などが多い。ボランティア証明等の発行も行っていると思う。

(E委員)

学校の方でも、ボランティア活動は、重視する、積極的に活用するように言われている。

(A委員)

夏休みや冬休みとかに子ども達に勉強を教えるとかやっていますね。去年からずっと2年連続やっていますが、水戸一高附属中なので、結局ストレートで持ち上がるので、受験勉強なしでそのままやっています。

(事務局)

県立図書館を盛り上げようということで、水戸一高附属中の生徒がいろんなイベントを計画し、図書館の会議室で小中学生に勉強を教えるボランティアもしてくれた。SNSで発信もしていた。中学校にそういう図書部ではないが、部活動とかサークルみたいのがあって、そこから完全にボランティアで人を集めて、生涯学習課のドリームパスに応募して、そこに応募した子ども達が水戸一高附属中で仲間を集めてボランティア活動を行うことになった。行動力のある生徒達のようなのである。

(G委員)

実は水戸市に高校生会というものがある。しかし、水戸一高附属中の生徒は中学生の部には受け入れきれない。高校生会に一高の子だったら高校生から入れるのだが。ただ、水戸市で、中学校だとジュニアリーダを作っている学校がある。それは育成会ごとに作っていたりもするので、なかなかそこに入るっていうのも難しそうである。

水戸市の生涯学習課の方に1回お尋ねしたことがあって、そこにヤングボランティアというのを作ってはどうかとお願いしたことはある。学区が広いのだと思う。

中学校でもかなり頑張っているのだなと思っていて、高校生会の子も達もヤングボランティアに入っている子もいた。もし、中学校でヤングボランティアというものがあれば、中学生でもボランティアをやりたいという受け入れになるかもしれない。

(A委員)

その他に何か質問、意見はあるか。

では、5年度から2年間現在のメンバーで行ってきた。図書館協議会は昨年の最初の回と、今回の最後の回とで2年間経っている。昨年度に3回、今年度3回目の協議会につきまして、皆様のご協力のもと無事終了することができた。

さて来年度では、7年度から2年間の協議会となるが、またいろいろと変わるところがあるかと思うが、今後の協議会の進め方も含め、事務局の方からご説明願いたい。

(事務局)

2年間の任期ということで、任期は令和5年の7月28日から7年の7月27日まで少し残っているが、基本的には今回で終わりである。

今年度末から来年度初めにかけて、皆様あるいはその関係する団体様宛に相談というか、調整をさせていただきたいと考えている。7月28日からになるが、協議会の委員として2年間をお願いしたいと思うので、よろしくいたします。調整しながら、新しい委員の方々について、来年度の7月28日からになるが、協議会の委員として2年間をお願いしたいと思うので、よろしくいたします。

また、今回からですね。今の皆様の任期から、協議会の進め方を大幅に変えてきた。以前は、2年間でテーマを決め、それに対する意見をいただき、建議書としてまとめていた。昨年度からは、その回ごとに報告案件などを設けて、その時ごとの課題等をテーマとして、協議内容の話し合いをしていただいた。来年度からも引き続きそのような形でやってよろしいのか、改めて皆様にも意見をいただければと思う。

(A委員)

テーマを一つに絞るではなくて、様々なことについて報告していただき、その後にその都度決定した協議内容について議論すると、またその結果について議事録をホームページで公開するというような手続きでとても良いと考えている。よろしいですかね。

その続きとしまして、次回のことを言っても仕方ないのですが、議題について何か皆さん意見があれば事務局をお願いします。

以前にも話が出たが、視聴覚のコレクションをどうするというのは古くて新しい問題である。ストリーミングとかですね、動画とか配信とか非常に有料のもの無料のものも含めて非常に多くなっている時代ですね。図書館がどのくらいコレクションしていくのかっていうのは少し悩ましいところかと考える。一方で館内において映像を見る利用者もいるし、それが料金に関わらず利用できるということはもちろん必要な気もするが、なかなか難しそう。ツタヤさんや、ゲオさんなんかも拝見するに、レンタルビデオのコーナーはだんだんだんだん小さくなっている。今拝見すると中古スマホとかですね。多分売っているコーナーが増えたりですね。業態が変化しているなという気がする。あと、今文科省の方で有識者会議をやっているのだが、デジタル対応っていうのも、やはり検討しなくてはいけないところかと思う。予算の問題もあってなかなか何をするといいとこまで行けないかもしれないが、検討する必要があると思う。特に茨城県では非常に大きな県立図書館を持っていて、でも実際にはこの近辺の方々しか利用できない状況である。デジタルネットワークというのは、守谷とか、日立の方とか、とにかくいろんな所にサービスを瞬時に提供できるサービスでもあるので、そういったことについて議論していくのも大事なかと考える。

今回の議題なので、次回の人達に考えてもらうのがいいかもしれない。もし、何かお気づきの点があったら、気軽に事務局の方に連絡いただきたい。

本日はたくさんの意見をいただき議論していただき、感謝申し上げます。

- ・ 次回の協議題、その他事務連絡について説明

(5) 閉会